

コアシンポジウム 1

「IBD 診療の最前線【多選択肢時代の炎症性腸疾患治療の最適戦略】」

主司会 杉本 健（浜松医科大学内科学第一講座）

副司会 櫻庭 裕丈（弘前大学大学院医学研究科消化器血液免疫内科学講座）

炎症性腸疾患（IBD）治療は、新規薬剤の登場により「多選択肢時代」を迎え、より高い治療目標の達成が可能となった。一方で、個々の病態や背景に応じた、より安全で最適な薬剤選択や治療順序の構築が求められ、臨床判断は一層高度化している。本シンポジウムでは、各薬剤のポジショニングや使い分け、最新知見に基づく意思決定、モニタリング指標による治療最適化、QOL や共有意思決定（SDM）などに関する演題を広く募集する。